

会 議 要 録

会 議 名		令和 8 年度 第 1 回 小平市青少年問題協議会
日 時		令和 8 年 4 月 2 4 日（水）午後 1 時 3 0 分～午後 3 時 0 0 分
場 所		中央公民館学習室 4
出席者 等	委 員	1 0 名（欠席者 6 名）
	事務局	こども家庭部長、こども若者みらい課長、こども家庭センター長、教育指導担当部長、地域学習支援課長、こども若者みらい課こども政策担当係長、こども政策担当
傍 聴 人		0 名
会議 内容	1 委嘱状交付 2 委員自己紹介 3 開 会 4 副会長の選任 5 議 事 （仮称）小平市こども条例制定の内容について （1）（仮称）小平市こども条例制定のスケジュールについて （2）（仮称）小平市こども条例制定の目的について （3）（仮称）小平市こども条例制定の章立てのイメージについて （4）（仮称）小平市こども条例制定の対象について 6 情報交換・意見交換 7 その他 8 閉 会	
配付 資料	資料 1 （仮称）小平市こども条例制定に向けたスケジュールについて 資料 2 （仮称）小平市こども条例制定の目的について 資料 3 （仮称）小平市こども条例の章立てのイメージについて 資料 4 東京都及び都内自治体の条例の比較について 資料 5 （仮称）小平市こども条例の対象について 1. こだいらこども・若者みらいプラン冊子 2. 第 4 2 号こだいら保護司だより 3. 青少年指導者用「人権尊重の社会」 4. 男女共同参画社会をめざす広報誌「ひらく」 5 8 号 5. こどもの遊びをつくるプロジェクトチーム始動 若者メンバー募集	

○ 会議内容等についての意見・質疑応答

5 議 事

(1) （仮称）小平市こども条例制定のスケジュールについて

事務局	<p>それでは（仮称）小平市子ども条例について説明いたします。</p> <p>市では令和 6 年度より進めていましたこども施策全体を統一的に総合的に見直したこだいら・こども若者みらいプランを策定し、令和 8 年 3 月に公表しました。</p> <p>委員の皆様にはそれぞれの立場からのご意見をいただきながらプランを策定できたこと、誠に感謝いたします。</p> <p>プランでは重点事業をいくつか掲げ、その内の一つとしてこどもまんなか</p>
-----	--

	<p>社会を目指し（仮称）小平市子ども条例の制定を挙げています。</p> <p>かねてよりこだいら・子ども若者みらいプランの集大成として、条例を制定していくとの考えで進めてきた経緯もありまして、長期的な視点に立って市、市民、事業者、関係団体等からなる地域全体で子ども・若者を育てる機運を醸成する礎となるものとして制定を進めてまいります。</p> <p>まず今年度1年間の予定を説明します。</p> <p>今年度は、青少年問題協議会を令和9年2月までに計5回開催します。</p> <p>それぞれ条例の内容の論点を説明していきますので、それに対して皆様のお考え、思い、またご質問などをいただいた上で条例の内容を検討していきたいと考えています。</p> <p>本日は早速、条例制定の目的、章立て、対象についてご意見いただければと思います。また、条例制定にあたり、子ども・若者等への意見聴取を予定しています。</p> <p>保育園児から高校生まで様々な世代へ向けたワークショップや全ての市立の小中学生に対し小平市が条例を作っていくことの周知、意見聴取などを予定しており、守られるべきこどもの声を聴きながら、条例の内容を検討していきます。</p> <p>また、11月から12月にかけて市民意見公募手続きにより、全ての世代からの意見をお寄せいただき、令和9年3月の条例制定を予定しております。</p> <p>今年度1年間はこの条例に係る会議内容となりまして、皆様には資料をご確認いただいたり、お考えをお話いただいたり、大変なご負担やお手間をおかけすることとなります。小平市の子どもたちにとって、全ての人が守らなくてはならない大切なルール作りをする過程の場となりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。</p> <p>続きまして、（仮称）小平市子ども条例制定に向けた子ども・若者等からの意見聴取についてです。子ども・若者等に対し、こどもの権利について日頃考えていることや思っていることについてワークショップを通して意見聴取します。ワークショップの内容については現段階で案となっておりますが、市内の小学校、中学校、高校の生徒会等に出向き、こどもの権利についてグループごとにワークショップを行う予定です。</p> <p>どのようなときにこどもの権利が守られていないと感じるか、また大人達や市に対して、こどもの権利を守るためにはどのようなことをして欲しいか、またはして欲しくないかなどの意見をまとめ、発表してもらうことを考えています。</p> <p>保育園の方では自分の言葉で伝えられる年齢の園児に簡単な言葉で質問を投げかけ、話を聞いて感じたことや、思ったことを気軽に話してもらうことを予定しています。</p> <p>児童・生徒への周知、意見聴取ですが、条例制定にあたり、広く意見を聴取するため市内の小学校・中学校・高校の児童生徒へ周知を予定しており、周知意見聴取の方法については今後検討してまいります。</p>
会長	<p>ワークショップを実施する学校の選定方法について教えてください。また、どのくらいの学校で実施する予定ですか。</p>
事務局	<p>本委員会に参加いただいている委員の学校等を通して、個別にお願いする予定です。また、保育園についても個別に連絡し、保育園の園児にも聞き取りを検討しています。実施につきましては、小学校、中学校、高校、保育園でそれぞれ1か所を予定しています。</p>
委員	<p>市内には公立・私立合わせて多くの学校があるので、いろいろな講師を検</p>

	討して、より多くの意見を聴いていくことがよいのではないかと感じました。
事務局	条例を制定する期間が一年と限られていることから、なるべく多くのこども達に意見を聴くため、計画策定時より意見聴取を行ってきました。また、ワークショップ以外にもこども達からの意見を聴取する手段を設ける予定です。

(2) (仮称)小平市こども条例制定の目的について

事務局	<p>条例制定の目的ですが、こどもの健やかな成長のため、こどもの権利を明らかにすること、また、こどもに関わる主体となる市、市民と保護者、こどもに関わる施設、事業者等の果たすべき役割を明らかにすることです。その上で、こども施策に関する基本的事項等を定めることにより、こどもにとって最善の利益が図られ、将来にわたり、全てのこどもが自分らしく安心して暮らすことができるまちを実現することを目的とします。</p> <p>令和7年度策定したこだいら・こども若者みらいプランは市が推進する事業の推進計画ですが、条例については市をはじめ、こどもに関わる全ての人、全ての事業者等が守るべきものとして、こどもを第一とした考えに基づく、こどもまんなか社会へ近づくための意識づけとなるものです。</p> <p>条例制定が小平市を始め、市民や事業者等がこどもを大切にし、こどもが自分らしく幸せな毎日を送ることができるような地域作りの後ろ盾となるものとして進めていきます。</p> <p>条例の内容ですが、次のように分類をする考え方がありますので紹介します。</p> <p>まずは、「こどもの権利保障を図る総合的な条例」です。こどもの権利の保障に重点を置き、それに関する施策を推進することを主たる目的としている条例です。</p> <p>続きまして「理念的な規定をする条例」です。こどもの権利や福祉についての理念を示すもので、具体的な権利の保護ではなく、基本方針やビジョンを掲げることを目的とするタイプの条例です。</p> <p>最後、「子育て支援に関して総合的な内容を規定する条例」です。</p> <p>こどもに関する施策、子育てに関する施策等を推進するため基本理念、自治体等の責務や役割、施策の基本的な方向を定めるものです。</p> <p>各自治体に策定されているこどもに関する条例は自治体の特色がよく表現されており、多様なものとなっています。紹介した分類に明確に分けられるものではありませんが、大きく3つの分類として捉えられる考え方があることから紹介させていただきました。</p>
委員	<p>先ほどこども達から意見を聴くためにワークショップを実施するとのことでしたが、条例の目的として市、市民、保護者、こどもに関わる施設および事業者等、こどもを取り巻くすべての方たちが対象になるということとなっています。こども以外の施設や事業所に対し、条例制定にあたっての意見聴取はどのように取り組むのでしょうか。</p>
事務局	<p>小平市における様々な事業を通し、団体等とも繋がりががありますので、そういった方々から意見をもらえる場があると考えておりますが、具体的な方法については、今後検討させていただきます。</p>
委員	<p>場合によっては、小学校長会や中学校長会に話が来ることもあるのでしょ</p>

	うか。こどもに関する条例なので、学校が一番関りが強いものと思いますので、教育委員会との連携についてどのようにお考えですか。
事務局	これから調整させていただく予定ですが、市内のこども全員に対し、こども条例制定を進めているということを周知したいと考えていますので、校長会や連絡会等の場で説明させていただければと考えています。
副会長	「理念的な規定をおく条例」について、こどもの権利や福祉についての理念や価値観を示すもので、具体的な権利保護の施策でないというところが気になります。本来、こどもの権利条約に則って各自治体でこども条例というものは制定されていくべきものなのではないかと思いますが、まず一番はこどもの権利を守るということを主体に置くべきではないでしょうか。「理念的な規定をおく条例」について、もう少し説明していただいてもよろしいですか。
事務局	こども条例については、各自治体によって様々な様態で制定されています。これらの条例を分類したときに、おおよそ3つのタイプに分類されると言われています。「理念的な規定をおく条例」は、具体的な施策についての記述が少ないものとして見受けられるということで、「理念的な規定をおく条例」として紹介をさせていただきました。これから小平市で策定する条例につきましては理念だけではなく、施策の推進の基本となる部分も入れ込んでいかななくてはいけないと考えています。
副会長	各自治体で制定したこどもに関する条例の問題点として実効性がないことが問題になっていると聞いています。こどもの権利を守ることと、こどもが好き勝手に何でもして良いものではないというところのバランスが難しいのではないかと思います。理念的なことだけとなるとこどもの権利を守ることは難しいものと考えます。こども達に向き合い、各関係者から意見をいただいて条例を制定するのであれば、理念的なもの以外の項目も構成されるものにしていただきたいと思います。
事務局	令和7年度に策定した計画に関して、毎年遂行されているか進捗を管理することも重要であると考えています。こどもまんなか社会を進めるなかで、計画の進捗を確認しながら施策の推進を図ることができる内容の条例となるよう考えております。
会長	各事業所の役割を明確化するというお話がありましたけれども、教育・保育関連以外の事業所などには、どのように周知や意見聴取を行うのでしょうか。
事務局	市内の事業者と繋がりのある部署があるので、ご案内等を送付するタイミング等でこどもの権利のことについて発信ができるように努めます。
会長	条例制定後に周知するというよりは、条例制定を進める中で意見を聞き、周知していくことが必要だと感じます。出来上がったときは見てくださいという周知をもう始めてもいいのではないかと思います。

(3) (仮称) 小平市こども条例制定の章立てのイメージについて

事務局	<p>これから制定する条例は、行政、住民、事業者等が守るべき法律の一つであり、地域ごとのルールとなるものです。ルールを定めた条文からなる条例を整理し住民の皆様が理解しやすいように大きな項目ごとに分けた構成が章立てとなります。条例を制定するにあたり、地域全体でこども・若者を育てていく後ろ盾となるものとなるため、想定される条例の章立ての構成を案として考えております。</p> <p>第1章の総則は、条例の目的や条例で用いる言葉の定義、そして基本理念のこの部分にあたります。</p> <p>第2章のこども権利は、こどもの権利に関する事項を明確に規定していく部分となります。</p> <p>第3章の市、市民と保護者、こどもに関わる施設および事業者等の役割は、こどもに関わる主体の役割を明確に規定していく部分となります。</p> <p>第4章の施策に関する基本的事項は、こども施策を進めていく上で必要となる環境作りなどを規定していく部分となります。こどもが安全安心に暮らせることや子育て家庭の支援、こどもの居場所や相談体制に関する事などになります。</p> <p>第5章のこども施策の推進体制は、こども施策を推進するため、計画を策定すること、毎年進捗を検証し、公表することなどを規定します。</p> <p>第6章の小平市こども未来会議では、こども施策を総合的に推進していくため、こども未来会議を設置していくことを規定します。本協議会と教育サービスなどの進捗報告等を行う子ども・子育て審議会を一つの会議体とし、こどもが年齢で途切れることなく総合的に施策を推進し、進捗状況を確認していきいけるよう見直しを図ります。</p>
委員	小平市こども未来会議のこの構成メンバーは、どのような方たちを想定されているのでしょうか。こどもを入れることは想定されていないのでしょうか。
事務局	現在構成されている委員の方に加え、事業者の方などが想定されますが、現在のところ検討段階となっています。こどもの参加につきましては、意見の言える場を年に何回か設けるといったことも想定しています。
委員	ただこども達に意見を聴くだけでなく、こども達で構成する委員会など、組織化した形をつくり、こども未来会議と連携をしていくといったものであれば、条例制定にこどもたちが参画している意識が生まれるように感じます。
事務局	教育委員会と連携して実施できるよう検討します。
委員	高校生の生徒会などであれば、十分意見を多分言える子たちはがいると思いますので、お考えいただければと思います。
会長	中学生が市の会議体に関わるといった話を生徒達にした場合、こども達からはどのような反応があると思いますか。私は積極的に関わってくれると思いますが。
委員	中学生は部活や勉強に忙しいため、授業以外の時間で活動を行うということは時間的な制約を感じて遠慮してしまう生徒が多いような気がします。ただ、現在の生徒達は、主体的な学びの中で自分の考えを表現する習慣があるので、心理的安全性が確保されれば、色々な意見を言うことが出来るとおもいます。

委員	こども条例については、こども達も読むことができるような条例にしていく必要があると思います。もう少しわかりやすい言葉遣いに見てはいかがでしょうか。
事務局	こども条例については様々な作りになっていまして、こどもにとってわかりやすく表現している自治体もあります。 しかしながら、様々なことを規定していく中でこども達に伝わりやすい表現とした場合、規定の内容があいまいになってしまう恐れがあります。条例の内容自体は法律用語を用いて規定をしていくことになりますが、こども達にも伝わりやすくなるよう、わかりやすい言葉で表現したリーフレットなどを別途作成する予定です。
副会長	こども達の声が十分に反映され、自分たちの意見がこの条例に関わっていることがわかるような条例を制定することで、こども達が関心を持ってくれると思います。また、こどもの権利については、小さなうちからわかってもらうという意味では、年齢に応じた伝え方が必要であると感じます。学校の特別活動のテーマとして扱ってもらうなど、教育委員会とも連携して、こどもの権利に関する意見を聴取することも大事であると思います。
事務局	今後、教育委員会とも、どのように連携を図っていくことが出来るか検討していきます。
委員	各自治体の条例の項目を見ますと、条例の位置付けが、非常に難しかったものだと見て取れます。 本来であれば、こども若者みらいプランを策定する前に条例があって、基本的な理念などが規定され、それに基づいて計画が策定されるといった構造であればわかりやすかったと思います。 こども条例の位置付けとして、小平市民憲章のような類の位置付けになるのでしょうか。実際の条文が出てこないとなかなかイメージしづらいというのが感想です。
会長	章立てを含めては様々な立場でのご意見いただきましたので、検討していただければと思います。

(4) (仮称) 小平市こども条例の対象について

事務局	<p>この論点では条例に出てくる言葉を明確にし、条例を読んだ人に共通の理解を持ってもらうため対象を明確に規定していくものです。(仮称) 小平市こども条例における対象でございますが、(1) のこどもから (6) の市までこどもに関わる主体を定義していきます。</p> <p>まず (1) のこどもについては、原則として市内に在住、在学、在勤し、または遊び、その他の目的で開催する 18 歳未満のものを言います。</p> <p>ただし、18 歳以上であっても、心身の発達過程にあるもの、または継続的に支援が必要なものも含めるものと考えています。</p> <p>(2) 保護者については、こどもの親、里親その他の親に代わりこどもを養育するものと考えています。</p> <p>(3) こどもに関わる施設については、こちらは市内にある児童福祉施設、学校、社会教育に関する施設、その他これらに類する施設のうち、こどもが育ち、学びために利用する施設と考えています。</p> <p>(4) 市民については、こちらは市内に在住、在学、在勤または滞在する全てのものと考えています</p>
-----	---

	<p>(5) 事業者については、市内で営利または非営利の活動、公共的活動その他の活動を営む団体と考えています。</p> <p>(6) 市については、市や教育委員会等の行政委員会を含めた実行期間と考えています。</p>
委員	こどもの定義について、心身の発達過程にあるものと継続的支援が必要なものというのはどういう具体的にどのようなものを想定されているのか伝わりにくいので、もう少しわかりやすく、対象となるものを示した方が良いのではないかと思います。
事務局	今後、条例制定を進める中で検討させていただきます。
会長	言葉を定義していく中で、小平市がこの文言にした経緯などがあれば教えてください。
事務局	できるだけわかりやすい表現で、この内容であればもれなく対象として説明ができる文言を選んでいきます。
会長	もれなく対象を定義するということはとても重要な考え方だと思います。今後は、この文言を選んだ意味や理念というものが共有されると良いなと考えます。
副会長	文章の中に注釈的なものが多く、読み取りづらいように感じます。リーフレットでもよいのですが、市民の方が見たときに一目でわかりやすいことも大事だと思うので、文章の中に法的な根拠を入れるのではなく、注釈のようなかたちでの記述はできないでしょうか。
事務局	文書法規を扱う部署と連携して、より分かりやすい記述となるよう検討します。

6 情報交換・意見交換

委員	<p>こども条例の制定にこども達に関わるというのは、とても大きなことです。保護者の皆様にもきちんと伝えられたらと思います。</p> <p>また、条例の制定について、各生徒にも意識を持ってほしいと思っています。小平市でも、こども達へのワークショップなど、教育委員会と連携しながら、全ての学校に浸透するように企画していただけるとありがたいなと思います。</p>
委員	<p>通常通り、入学式を迎え新たな学校生活が始まっているところです。昨年度の生徒の内訳を確認しましたが、本校における小平市出身の生徒は全体の15%程度となっていました。小平市と国分寺市と小金井市と立川市の4市で約半分の生徒が本校に通っていますが、その中でも小平市が一番多くを占めている状況です。</p> <p>次いで国分寺市となっています。本校は小平市と国分寺市の境目にありますので、このような状況になっていると捉えています。</p> <p>小中学校に比べ高校は地域との密着性という面で少し薄まってしまっているのですが、小平市内の高校として地域ともできるだけ連携を図っていきたいと考えています。</p> <p>その中の一つとして、ボランティアなど積極的に活動していきたいと思っていますので、市でも高校生に手伝ってほしいことなど教えていただければと考えています。今後ともいろいろ情報をいただければと思います。</p>
委員	<p>私は多くの犯罪少年と関わっており、彼らが失っているこどもの権利を守るためにこども条例はとても大切なものであると感じます。また、こども条例については大人たちに強くアピールする必要があるのではないかと思います。犯罪少年との面接の中で、幼い頃に家庭内における言葉の暴力、肉体的暴力がトラウマとなって自分の居場所がなくなったという話を聴きます。ワークショップなどでこどもの意見を吸い上げて、問題点となるところはみ</p>

	<p>んなで考えるような場所を作っていくことも大切ではないかと思います。小平市内でも、地域によって少年たちの考え方や家庭局環境、教育は様々です。そのような地域性の違いも考慮した上で、しっかりやっていただければと思っています。</p>
委員	<p>小平市青少年委員会では、例年通りジュニアリーダーシニアリーダー養成講座というのを行っています。ジュニアリーダーは小学校6年生でシニアリーダーは中学1年生から高校3年生の卒業生がまた青少年リーダーとして、こども達の支援に来てくれる状況です。</p> <p>養成講座も実施していますが、こども達に限らず指導員に対してもこども条例やその経緯も含めて伝えていきたいと思っています。</p>
委員	<p>最近では市内でもどんどん農地がなくなる一方、新しい家が建っています。地域が変動する中で、市民も小平のことを知らない状況にあると感じています。市民が20万人いる中で、地域を知り、愛する取組ができればと思います。小平の特色は地形が平らであることと、福祉施設などが多いことであるので、地域のこども達と高齢者が繋がることで健全な精神が養われることもあると思います。</p>
委員	<p>権利擁護についてわかりづらいことが多いと思いますので、令和7年度に作成したこども若者みらいプランの小学生用の概要版のようなものを条例制定に合わせて作っていただければと思います。</p>
委員	<p>権利という言葉がこども達がどう捉えるかということは、各学校でも授業などで行っているかと思いますが、こどもの権利についてより焦点が当たるように実施していただければと思います。</p> <p>ボランティア活動の話で言いますと、小平霊園の清掃や保育園などいくつかあります。私が現役の頃でだいぶ前の話ですけど、参考にいただければと思います。</p>
委員	<p>私は大学生ですが、週に1回ほど小平市内の中学校で学習ボランティアをしています。本年度から中学校で新入生の数が増えたことから、こども達と接するボランティアの方というのがとても大事だと感じています。自分がボランティアに出向いている中学校ではボランティアの人数ある程度いるので、とても助かっていますが、その方々もいつまでもできるわけではありませんので、高校生や若い世代の方たちがボランティアに参加してもらえるようになればと感じています。</p> <p>こども条例に関しては、当事者のこども達や保護者の方々はもちろん、これから小平で生活して新しく家庭を作っていく方々にも、関心を持ってもらい、制定の過程に加わっていただけたら良いのではと感じました。</p>
副会長	<p>私は小平市の小学校19校にそれぞれある青少対の会長の集まりの代表として今回伺わせていただいておりますが、PTAがなくなる学校があったり、なかなか厳しい状態が続いています。</p> <p>一昨年度から青少対の会長同士がオンライン上で意見を言う場を設けるなど新たな環境づくりも行っております。</p> <p>PTAもなくなると関わり合いのある保護者の方が少なくなったりしますが、こども達には小平がふるさとであると感じてもらえるような活動をしたいと思っています。</p> <p>こどもの人権に関しては、私も人権擁護委員を拝命して4年目となります。自分が所属する青少対ではお祭りのときに人権コーナーというものを作り、人権や守られる権利について知ってもらえるように活動していますが、そこでも地元の中学生在がボランティアで関わってくれています。活動がとても楽しかったのもまたやりたいと言ってくれていますので、継続的に今年度も実施しようと思っています。</p> <p>伝えにくいことでも少しずつ伝えていき、全部がわからないにしても、言葉を</p>

	聞いたことあるだけでも意識に蓄積されていくと思いますので、権利を普及する活動ができれば良いと思います。
会長	<p>私は大学で学生たちと一緒に活動していますが、経験や体験が人を成長させると思っています。教育実習では学生の意識も変わるし、顔つきも変わって帰ってきます。それは、一生懸命こども達に伝えようとしたり、一緒に何かすることで成長することだと思います。</p> <p>こども条例についても、例えば中学生が学んで小学生に伝えるとか、小学生が幼稚園生にわかりやすい言葉で伝えようとするとか、お互いに伝えようとする事で、伝える側も成長し、伝えられる方も身近な人に伝えるような方法であればお互い理解しやすいのではないのでしょうか。</p>